

文献情報									
表題・資料名									
流域特性を考慮した汚濁物流出プロファイルの予測									
部会	G1	文献ID	R0050	観測ID	S002	公表年	1994		
著者名									
市木 敦之, 山田 淳, 大西 敏之									
収録雑誌名									
環境システム研究論文集									
巻号	22	ページ	68-77						
分類と目的									
都市		農地		林地		流域		その他	
目的									
流域特性を表すフレーム値を用いてきわめてマクロにでも汚濁物流出の全体像を把握することを目的としており、複数の中小河川における晴天時、雨天時の実測データをもとに、汚濁物流出負荷量を流域の人口、土地利用、下水道整備率等の流域特性を用いたモデルとして一般化し、流域構造の変容に呼応して変化する汚濁物流出プロファイルの予測を試みた									
コメント・特記事項									
地点情報と流域情報									
地名									
都道府県	京都府	標高(m)		水系	山科川				
経度		緯度							
形状係数		平均勾配		流域面積(ha)	3221	流路延長(km)		河川次数	
土地利用情報									
都市									
農地									
林地	都市38%、農地13%、林地49%								
その他									
時期と調査方法									
観測期間	晴天時調査はおおむね毎月1回程度の頻度で実施。降雨時調査は期								
観測開始日	1989/08/01								
観測終了日	1993/10/01								
水質観測頻度	流出前半、水質急変時は10分間隔、流出後半の流量逓減期は水位の下降に合わせて適宜10分から1時間とした。								
採水頻度	流出前半、水質急変時は10分間隔、流出後半の流量逓減期は水位の下降に合わせて適宜10分から1時間とした。								
流量観測頻度	10分間隔								
採水方法			流域観測方法						
実測値		マニユアル							
観測値(第三者提供)		自動採水器							
モデル等推測値		その他							
その他									
降雨時調査									
調査実施		11.1							
観測イベント	22	降雨継続時間0.7~45.6、先行晴天日数0~41							
最小雨量(mm)		15.8							
最大雨量(mm)		62.5							
気象情報									
実測		方法	転倒マス型自記雨量計により	場所	山科川流域内(詳細は不明)	アメダス地点			
観測値の利用		提供機関		観測地点		アメダス地点			
モデル等推測		モデル名		コメント					
その他									
対象物質									
N		P		有機物		その他			
全窒素(TN)		全リン		T-COD(Mn)		SS			
溶存態窒素(DN)		溶存態リン		D-COD(Mn)		濁度			
硝酸		リン酸態リン		TOC		重金属			
亜硝酸									
アンモニア									
その他		その他		その他		その他			

文献情報							
表題・資料名							
流域特性を考慮した汚濁物流出プロファイルの予測							
部会	G1	文献ID	R0050	観測ID	S002	公表年	1994
著者名							
市木 敦之, 山田 淳, 大西 敏之							
収録雑誌名							
環境システム研究論文集							
巻号	22	ページ	68-77				
原単位							
窒素-数値		単位					
原単位の求め方							
リン-数値		単位					
原単位の求め方							
有機物-数値		単位					
原単位の求め方							
TOC-数値		単位					
原単位の求め方							
SS-数値		単位					
原単位の求め方							
その他-数値		単位					
原単位の求め方							
その他・備考・コメント							
論文では原単位として記載はされておらず, グラフとして記載されているのでそちらから読み取ってください							

日本環境学会 (2013) 非特定汚染源からの流出負荷量の推計手法に関する研究
注: データを引用する際には必ず元文献をご確認ください。